

第22回宝塚混声合唱団音楽会



2010年7月24日 土

いたみホール(伊丹市立文化会館)

フェリックス・メンデルスゾーン OP.36

オラトリオ「パウロ」

開場 PM 2:30 開演 PM 3:00 主催: 宝塚混声合唱団 後援: 宝塚市・伊丹市・宝塚市教育委員会・宝塚市文化振興財団・宝塚合唱連盟

ごあいさつ

本日は私たち宝塚混声合唱団第22回音楽会にお越しいただき誠にありがとうございます。

今回はメンデルスゾーンの2大オラトリオの1つ「パウロ」を演奏させていただきます。

本作品は1836年・メンデルスゾーン27歳の年に作曲完成し、その年5月22日デュッセルドルフで開催の音楽祭にて自ら指揮を執り初演、大好評を博しました。

キリストの教えを広く世界に広める礎となった使徒パウロは、ユダヤ教信者からキリスト教信者に回心し、伝道者として働き歩みました。

メンデルスゾーンは、その歩みを新約聖書の「使徒言行録」を題材とし、作曲の多彩な技法を用いて壮大なオラトリオを創り上げています。

今回も名曲に盛り込まれた多くのメッセージを、より良く理解していただき、楽しく聴いていただけるよう字幕付にいたしました。

2010年は宝塚混声合唱団創立30周年記念の年になります。

今年も指揮者大森地塩先生が永年にわたり、広く指導しておられます発声を基礎として、団員による訳詞・解説の助けを受け、ドイツ語の発音に苦しみながら、強化合宿等を重ね、この大曲に取り組んできました。

団員が心を合わせ日頃の成果をそして喜び溢れる音楽を力いっぱい歌います。

ソリストの方々、アンサンブルの方々、ピアニストの方々など多くの関係者にご協力いただき、本日の音楽会を迎えることとなりました。

宝塚混声合唱団の活動にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2010年7月 宝塚混声合唱団



Program

Oratorium Paulus

FELIX MENDELSSOHN OP.36

オラトリオ「パウロ」

フェリックス・メンデルスゾーン (1809 ~ 1847)

第Ⅰ部

休憩

第Ⅱ部

ソリスト

ソプラノ：老田 裕子

アルト：内海 由美子

テノール：頃安 利秀

バス：藤村 匡人

オーケストラ

アンサンブル・ムジカ・アニマ

字幕

藤野 明子

指揮

大森 地塩

《シナリオ・曲目紹介》

このオラトリオはキリスト教誕生の頃の偉大な伝道者パウロの物語で、歌詞はほとんど聖書に基づいている。

元々熱心なユダヤ教徒だったパウロはキリスト教徒を迫害する旅の途上強い光に打たれて倒れ、復活のキリストの声を聞く（第14曲）。

これを契機に彼は超人的な情熱でエルサレムからトルコ・ギリシア・ローマへ至る前後三回の大旅行で迫害と戦いながら新生キリスト教の国際的な宣教活動に生涯を捧げた。60年前後に皇帝ネロに処刑されたとの説がある。

彼が各地の教会の信徒を励まし信仰を説いた手紙（獄中からも）は後世まで教会で大切にされ、幾つかが新約聖書に取り入れられている。

「救いは信仰のみによる」と説く彼の教理はキリスト教の教義の普遍化、体系化に貢献し、後世ルターの宗教改革のよりどころとなり、この宗教が世界宗教へと発展して行く道筋を用意した。

オラトリオは「祈祷所」のイタリア語oratorioに名をとったもので17世紀にこの祈祷所での音楽がオペラの影響も受けながら舞台表現のない宗教的道德的な劇音楽として発展したものである。

1836年デュッセルドルフでの「パウロ」の初演は熱狂的な賞賛に包まれ、2年以内に50以上の都市で上演された。シューマンも絶賛している。

言うまでもなくレシタティープのソロが物語の進行を受け持ち、合唱はそれを受けて場面を盛り上げる。

第1曲 …… 序曲

最初の部分は第16曲「目覚めよと呼ぶ声がする」の旋律で、パウロに改名する前のサウロが信仰で目覚めるというオラトリオの主題を示している。

第 I 部

第2曲 …… 合唱

天地創造の神に、異教徒に対抗する神の言葉を求める

第3曲 …… コラール

神の栄光を讃え、恵みに感謝する

➤以下はキリスト教で最初に殉教した聖人ステパノの場面で、ユダヤ教徒のサウロはその迫害の手助けをした

第4曲 …… レシタティープ（ソプラノ）と二重唱（バス二重唱）

民衆は宣教しているステパノを聖所と律法を冒涇したとして議会に引張って行った

第5曲 …… 合唱（民衆）

民衆はステパノがモーセと神を冒涇しているという

第6曲 …… レシタティープ（ソプラノ テノール ステパノ）と合唱

議会でステパノは所信を述べるが民衆は彼に死を叫ぶ

第7曲 …… アリア（ソプラノ）

エルサレムが預言者たちを殺したという嘆き

第 8 曲 …… レシタティーブ（テノール）と合唱（民衆）

人々はステパノを引き出して彼を殺せと石で打った

第 9 曲 …… レシタティーブ（テノール）とコラール（合唱）

ステパノは主に彼らを許せと叫び、主と一体となった満ち足りた信仰のうちに死ぬ

第 10 曲 …… レシタティーブ（ソプラノ）

サウロは石を投げる人々の上着を預かった 信仰深い人たちは悲しんでステパノを葬った

第 11 曲 …… 合唱

肉体は死んでも魂は生きるとうたう

➤サウロはなおも迫害を続けるが、その途上強い光に打たれてイエスの声を聞き目が見えなくなる

第 12 曲 …… レシタティーブ（テノール）とアリア（バス サウロ）

サウロはなおも迫害を続けキリスト教徒を誹謗する

第 13 曲 …… レシタティーブとアリオソ（アルト）

サウロは聖徒たちをエルサレムに連行する権限と命令を得たが主は聖徒たちを忘れることはなかった

第 14 曲 …… レシタティーブ（テノール バス サウロ）と合唱（女声）

サウロは光に打たれて倒れたとき「なぜ私を迫害するのか」という復活のイエスの声（女声合唱）を聞く

第 15 曲 …… 合唱

立ち上がり町へ行けというイエスの声（第 14 曲）を受け、主の栄光がサウロの上に現れるとうたう

第 16 曲 …… コラール

サウロへの呼びかけ このコラールは讃美歌「起きよ夜は明けぬ」になった

第 17 曲 …… レシタティーブ（テノール）

倒れたサウロは目が見えなくなった

➤主が遣わした弟子アナニヤによってサウロは目が見えるようになる

第 18 曲 …… アリア（バス サウロ）

サウロは神の寛容と慈悲を祈る

第 19 曲 …… レシタティーブ（テノール ソプラノ）

主は弟子アナニヤにサウロのところへ行かせる

第 20 曲 …… アリア（バス サウロ）と合唱

サウロの感謝の祈りとそれを受けた合唱

第 21 曲 …… レシタティーブ（ソプラノ テノール アナニヤ）

サウロはアナニヤによって目が見えるようになり、洗礼を受けてイエスを神の子であると説き始める

第 22 曲 …… 合唱

神の英知と采配を讃えた合唱で第Ⅰ部を終わる

第 II 部

➤ユダヤ教の信仰を通してキリスト教に強く引きつけられたサウロはパウロと改名する

➤そして使徒バルナバはパウロを連れて宣教旅行に船出する

第 23 曲…… 合唱

世界は今や主のものと歌う

第 24 曲…… レシタティーブ (ソプラノ)

バルナバとパウロが宣教旅行に出発する

第 25 曲…… 二重唱 (テノール バルナバ バス パウロ)

今こそ我らは主の御使いとなったと歌う

第 26 曲…… 合唱

平和を告げる前触れを賛美する

第 27 曲…… レシタティーブとアリオーソ (ソプラノ)

二人は船出して神の言葉を喜びをもって伝えた

➤ユダヤ人たちの迫害を受けながらパウロは宣教し奇跡を行なう それを見て異邦人たちは二人に捧げ物を持って来るがパウロは受入れず新しい信仰を説く

第 28 曲…… レシタティーブ (テノール) と合唱 (民衆)

ユダヤ人たちはパウロの宣教を妨害し彼を殺す相談をした

第 29 曲…… 合唱 (民衆) と独唱

パウロを抹殺しろとの民衆の声に対し主の計らいを望む独唱・合唱

第 30 曲…… レシタティーブ (テノール バス パウロ)

パウロは異邦人への伝道を決意する

第 31 曲…… 二重唱 (テノール バルナバ バス パウロ)

二人は異邦人伝道を主に命じられたことを確信する

第 32 曲…… レシタティーブ (ソプラノ)

パウロはルステラで歩けない人を歩けるようにした

第 33 曲…… 合唱 (異邦人たち)

神々が人間と同じ姿になって我らのところへ下られたのだ

第 34 曲…… レシタティーブ (ソプラノ)

ゼウス神殿の祭司が二人に雄牛と花輪を捧げる

第 35 曲…… 合唱 (異邦人たち)

「憐れみたまえ 貴い神々よ 我らの捧げものをご覧あれ」

第 36 曲…… レシタティーブ アリア (テノール バス パウロ) と合唱

パウロは捧げ物、偶像崇拜、神殿を否定する

合唱は天地創造の神を信ずるとうたう

- 第 37 曲…… レシタティーブ (ソプラノ)
民衆は怒り狂って二人に叫んだ
- 第 38 曲…… 合唱 (ユダヤ人と異邦人たち)
民、律法、聖所に逆らうことを教えるこの男を石で打て
- 第 39 曲…… レシタティーブ (ソプラノ)
迫害の中にあって主は彼を助け力づけた
- 第 40 曲…… カヴァティーナ (テノール)
主は彼に死にいたるまで忠実であれと呼びかける

➤パウロはユダヤ教の総本山エルサレムへ迫害を覚悟して乗り込む前に、3 年居たエペソの教会の長老たちに別れを告げる

- 第 41 曲…… レシタティーブ (ソプラノ バス パウロ)
「パウロはエペソに使いを送り」
- 第 42 曲…… 合唱 (教会の人々) とレシタティーブ (バス パウロ テノール)
長老たちはパウロの無事を願うが彼は死ぬ覚悟だと言う
- 第 43 曲…… 合唱
「見よ なんとこの愛を父は我らに示されたことか」
- 第 44 曲…… レシタティーブ (ソプラノ)
パウロの献身が讃えられる
- 第 45 曲…… 合唱 (終曲)
主からの祝福と主の賛美を歌ってオラトリオは終わる

—— 引用・参考：樋口 隆一、尾山 真弓 氏他による ——
(資料協力：OB 会 長尾 精、編集文責：音楽会運営部)



キリスト教のことはよくは知らないという方も「目からうろこが落ちる」ということばは聞いたことがあるでしょう。これは、もともと熱心なユダヤ教徒だったヘブライ人サウロが、キリスト教徒を迫害する旅の途中で強い光に倒れ3日間目が見えなくなった後、キリストの弟子アナニアによって見えるようになった出来事についての聖書（使徒言行録9.18）の記述「たちまち目からうろこのようなものが落ち」によるものです。

さて、1836年5月デュッセルドルフで初演され熱狂的な賞賛を得たメンデルスゾーンによるオラトリオ「パウロ」は、宝塚混声が2006年に取り組んだ「エリヤ」に先駆けて作曲されたものです。今回皆様にお聞きいただく「パウロ」では、パウロ（サウロ）をソロ（バス）が、物語の進行（レシタティーブ）はソプラノとテノールのソロが歌います。テノールのソロはステパノやバルナバも担当しますが、私たち合唱団は、民衆の思いやことば、あるいは祈りを歌います。

先述したようにパウロは、元はローマ市民権をもつユダヤ教徒でキリスト教徒を迫害する側でした。第一部の前半（第11曲まで）は伝道者ステパノが殉教する場面が描かれ、第8曲ではステパノに向かって石を投げる民衆を合唱が歌います。私たちは殺気だった群衆の様子が目に見えるように歌うことを心がけ練習してきました。12曲、13曲ではサウロがキリスト教徒を迫害する場面が描かれます。しかし、第14曲で「サウロ、サウロ、なぜ私を迫害するのか」という復活したイエスの声（女声四部合唱）を聞き、サウロは回心します（第15～21曲）。第一部の重要場面

である第14曲を、女声合唱は大森先生に求められた「天使の声で」歌い上げることができますかどうか…。「目からうろこ」の場面がどこで出てくるかもあわせてお楽しみください。

第二部では、パウロが多くの迫害にあいながら宣教し奇跡を行う様子を伝えます。第26曲は美しいメロディに載せて歌われるイザヤ書を引用したパウロの宣教のことばです（ローマの使徒への手紙10：15,18）。一方、パウロの宣教に対する異邦人の反応を表現する合唱部分では、第一部ででてきた「石を投げて殺せ」ということばが、今度はパウロに向かいます（第38曲）。第41曲でエルサレムに向かう決意を語るパウロは、捕らえられることを予見しています。信徒たちとの別れやこれから先に待ち受ける苦難を反映する重いメロディが奏でられますが、最後にはキリスト教をエルサレムから世界に広げるという宣教活動に献身したパウロを讃えて、主を賛美する合唱で終わります。

パウロは実に2万キロを旅したと言われ、三度の宣教旅行の後、最後はローマで捕らえられ亡くなりました。私たち宝塚混声合唱団は、大森先生から「テキストの流れを大切に」とご指導を受けながら、歌詞の意味と音楽の流れを意識しながら練習を重ねました。迫害していた側のパウロが、一転して迫害される側となり、パウロとして信仰を述べ伝える人となっていく様子を、歌声にのせて皆様にお伝えできれば幸いです。

（A：西岡 有香）